

ALPS処理水の処分に関する 安全対策・風評対策の最近の動向

トピック集 2024年6月

販促・魅力発信

- 令和6年3月1日から5月31日までの期間、東北経済産業局が入居する合同庁舎1階の行政情報プラザ（※）において、ALPS処理水の現状と水産加工業の復興状況に関する展示をおこなった。
（※）情報発信の場所として、経済産業省施策の紹介をはじめ、東北地域経済を牽引する技術、東日本大震災からの復興に関する情報など、様々なテーマで展示
- 具体的には、岩手県久慈市、宮城県気仙沼市、（公社）福島相双復興推進機構、（一社）大日本水産会魚食普及水産センターの協力を得て、三陸・常磐地域の水産加工品やパンフレット等を展示。

展示の様様



- 5月29日～6月2日の5日間、JR上野駅の中央改札口前で開催された「福島産直市」に、福島相双復興推進機構の主催で、福島県の水産加工品の販売会である「ふくしま常磐大漁市」を出店。
- 本イベントでは、福島県漁連をはじめとした福島県の水産加工業者等9事業者の商品約40品を販売。
- 30日と1日には、常磐線特急ひたちによる「はこビュン」（列車による荷物輸送サービス）を活用し、佐藤水産（相馬市）の新鮮なボイルやなぎだこの販売を実施。両日とも完売した。
- 開催期間中は毎日多くのお客様が来場。同じ上野駅で開催した昨年9月の「福島産直市」、本年2月の「南東北産直市」や会期中のリーダーも多かった。

ふくしま常磐大漁市 in 福島産直市（上野駅）



会場の様子



ボイルやなぎだこ（はこビュン活用）



はこビュンでの会場運び込み

■ 来場者の声

「ヤナギタコが柔らかくて美味しい。東京でタコは高いので、この味、この量のタコがこの値段はお買い得。」「昨日買って美味しかったのでまた買いに来た。」「色々買って応援したい。頑張っ欲しい。」

- 福島相双復興推進機構では、「6次産業化等へ向けた事業者間マッチング等支援事業」において、福島県産品の販路拡大に向けて、企業間取引拡大に向けたマッチング支援や小売り・イベント等による販売促進支援を行っている。
- 本事業における水産加工事業者と流通事業者のマッチング支援の結果、以下のような成果があった。

販路開拓支援成果（事例）

- 相馬市の「浜の駅松川浦（相馬復興市民市場）」にて、**中澤水産の「平目と生海苔の海鮮ぶっかけ丼」等4商品、おのづか食品の「うに味噌」が成約。**
- 6月より販売を開始したが、既に追加で出荷を行うなど売れ行き好調。



販売コーナー



平目と生海苔の海鮮ぶっかけ丼
（中澤水産）



うに味噌
（おのづか食品）



浜の駅松川浦

- 2024年5月29日～6月1日、**シンガポールの大手輸入卸売業者（1名）とミシュランガイド・三つ星レストラン（2名）から計3名を招聘し、福岡、長崎、熊本の水産業者との商談を組成**した。
- レストランから招聘した2名のうち、1名は調達、もう1名はレシピ開発担当。日本の食材に知見を有するレシピ開発担当を招聘することで、日本産水産物をメニューに採用するイメージを持ってもらえるように工夫した。

水産物輸出拡大に向けたシンガポール・バイヤーの九州招聘

■シンガポール・バイヤーの九州招聘概要

- ・ 招聘期間：2024年5月29日～6月1日
- ・ 訪問先：福岡、長崎、熊本
- ・ 視察・商談した水産事業者：4社
- ・ 商談した水産物：アマダイ、ブリ、タイ、マグロ、のどぐろ

■商談した水産事業者の反応

（長崎）

- ・ シンガポールでは、冷凍魚があまり普及しておらず、バイヤーも抵抗感を示していたが、サンプル品を発送させてもらえそう。これを市場開拓のチャンスと捉えたい。

（熊本）

- ・ 今回のバイヤー受け入れは、シンガポール向けの新しい販路開拓に繋がりをうる好機となった。
- ・ 商談の機会を頂き、有難かった。

■招聘したシンガポール・バイヤーの反応

- ・ シンガポールに入っていない九州の魚種が複数ある。
 - ・ これを機に、九州の魅力を発掘して広めていきたい。
 - ・ レストランで使ってみたい商材がいくつもあった。
- 今後のメニュー開発に役立つ有意義な商談だった。



長崎の水産事業者との商談の様子



熊本の水産加工場視察



熊本の水産事業者との商談の様子

- 東京電力が福島県産品の美味しさや魅力を伝えるために実施している「発見！ ふくしま」の取り組みの一環として、6月7日、8日の2日間、埼玉県川口市にある**大型鮮魚専門店「角上魚類」川口店**に特設コーナーを設け、「発見！ ふくしまフェア」を開催した。真鯛やヒラメなどの新鮮な「常磐もの」を提供した。
- 6月22日、23日の2日間、栃木県宇都宮市にある道の駅うつのみや ろまんちっく村にて、準備や片付けが要らない、手ぶらで参加できるバーベキューイベントを開催した。**2日間合計で約9,000人の来場者**に対して、「常磐もの」や福島牛などの選りすぐりの福島県産品に加え、北海道産ホタテ等を約200食提供した。

角上魚類 川口店「発見！ ふくしまフェア」

- 日程：6月7日（金）、8日（土）
- 場所：角上魚類川口店（埼玉県川口市）



▲売場の様子

道の駅うつのみや ろまんちっく村手ぶらでBBQ

- 日程：6月22日（土）、23日（日）
- 場所：道の駅うつのみや ろまんちっく村（栃木県宇都宮市）



▲会場の様子



▲手ぶらでBBQ

理解釀成

- 2024年6月11日、福島県福島市で開催された「令和6年度第1回廃炉安全確保県民会議」において、**ALPS処理水の海洋放出に係る取組状況について説明し、意見交換を行った。**

会議の様子



- **ALPS処理水に係るモニタリングの結果を一目でわかるマーク形式で表示**するページについて、**Yahoo!JAPANのトップページにバナー広告を掲載。**

ALPS処理水に係るモニタリングページ（抜粋）

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと

- ALPS処理水って何？
本当に安全なの？
- トリチウムって何？
- なぜALPS処理水を
処分しないといけないの？
- 本当に海洋放出しても
大丈夫なの？
- 近海でとれた
魚は大丈夫なの？

ALPS処理水に係る
モニタリング

経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

Twitter Facebook Line Messenger

日本語 | English

安全対策・
風評対策の取組 > 関連コンテンツ >

ALPS処理水に係るモニタリング

ALPS処理水は、放出前に、含まれる放射性物質の濃度測定を行い、安全基準を下回っていることを必ず確認するなど、厳格に管理されて放出が行われることから、近傍に生息する魚などの食品の安全性の問題は生じません。さらに、放出前後で、海水、魚類、海藻類のモニタリングを強化して実施し、状況を確認していきます。

ALPS処理水の分析結果

放出完了した水 ※

東京電力及び第三者機関のJAEAが放出前のALPS処理水の分析を行い、いずれも基準を満たしていることを確認しました

※7月10日に採取を行ったALPS処理水（K4-Aタンク）
※基準：トリチウム以外の告示濃度比値和1未満

放出完了した水 ※

東京電力及び第三者機関のJAEAが放出前のALPS処理水の分析を行い、いずれも基準を満たしていることを確認しました

※12月22日に採取を行ったALPS処理水（K4-Bタンク）
※基準：トリチウム以外の告示濃度比値和1未満

東京電力福島第一原子力発電所近傍海域のモニタリング結果（海水・魚に含まれるトリチウム）

現在の状態 ※

異常なし

※最新の各種間での分析結果をもとにしています

凡例

異常なし：「放出停止判断レベル」（設備の運用状況等の確認が必要な指標）を超えていないときに表示

「放出停止判断レベル」を超えるときに表示

※「放出停止判断レベル」は、「放水口付近で700Bq/L」「放水口付近の外側10km四方内で30Bq/L」と定めています。これを超えた場合でも、周辺海域のトリチウム濃度は安全基準60,000 Bq/LやWHO飲料水基準10,000 Bq/Lを十分下回り、周辺海域は安全な状態です。

Yahoo!JAPAN バナー広告

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと

周辺の
海の状況は
どうなっているの？

経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと

海水や魚は
大丈夫なの？

経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

ページはこちら

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

- 「ALPS 処理水について知ってほしい5つのこと」をそれぞれ1分程度でわかりやすく解説する動画について動画広告を展開。
(動画はそれぞれ画像左下の2次元コードからご覧いただけます。)

1分程度でわかりやすく解説する動画

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
ALPS 処理水って何？
本当に安全なの？




- ① ALPS処理水って何？
本当に安全なの？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
トリチウムって何？




- ② トリチウムって何？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
なぜALPS処理水を
処分しなければならないの？




- ③ なぜALPS処理水を
処分しなければならないの？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
本当に海洋放出をしても
大丈夫なの？




- ④ 本当に海洋放出をしても
大丈夫なの？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
近海でとれた魚は
大丈夫なの？

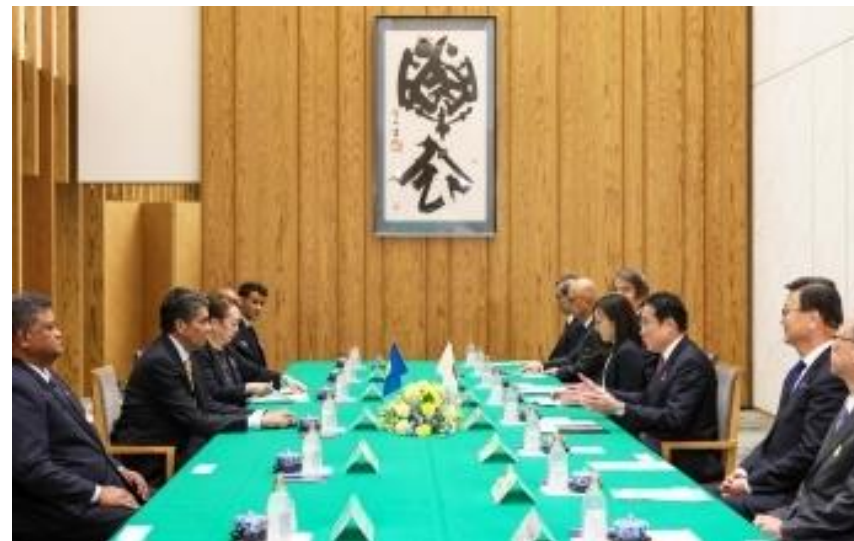



- ⑤ 近海でとれた魚は
大丈夫なの？

- 2024年6月4日、岸田総理は訪日中のスランゲル・ウィップス・ジュニア・パラオ大統領と日・パラオ首脳会談を実施した。
- 岸田総理から、ウィップス大統領の昨年の福島訪問に触れ、改めて謝意を述べた上で、ALPS処理水の海洋放出に関する日本の取組についてウィップス大統領が示した信頼に応えるべく、太平洋島嶼国との間で科学的根拠に基づく丁寧な説明を継続していく旨述べた。
- ウィップス大統領からは、昨年6月の福島訪問において、日本政府が最も高い安全基準に従ってALPS処理水の海洋放出を行っていることを確認したとして、安全性に関する日本政府のコミットメントに感謝する旨述べた。



▲岸田総理とスランゲル・ウィップス・ジュニア・パラオ大統領
(写真：外務省HP)



▲日・パラオ首脳会談の様子（写真：外務省HP）

- 2024年6月13日から15日に開催された**G7イタリア・プーリアサミット**の**首脳コミュニケ**において、「我々は、科学者及びパートナー並びに**I A E A**と積極的に協調しながら、多核種除去設備（ALPS）処理水の放出を責任ある形で管理するための、安全で、透明性が高く、科学に基づいた日本のプロセスを支持する。」との文言が盛り込まれた。

■ G7プーリア首脳コミュニケ（関連部分抜粋）

We support Japan's safe, transparent, and science-based process to responsibly manage the discharge of Advanced Liquid Processing System treated water and in proactively coordinating with scientists and partners as well as the IAEA.

（仮訳）

我々は、科学者及びパートナー並びに**I A E A**と積極的に協調しながら、多核種除去設備処理水の放出を責任ある形で管理するための、安全で、透明性が高く、科学に基づいた日本のプロセスを支持する。



▲G7プーリア・サミットに参加した各国首脳（写真：首相官邸HP）

- 2024年6月17日、**鯨博行外務省アジア大洋州局長は、劉勁松（りゅう・けいしょう）中国外交部アジア司長と北京において協議を実施し、日中関係及び双方の関心事項について率直な意見交換を行った。**
- **ALPS処理水については、双方は、昨年11月及び本年5月の日中首脳会談を踏まえ、建設的な態度をもって協議と対話を通じて問題を解決する方法を見い出していくことを改めて確認するとともに、これまでの意思疎通の進展を踏まえて協議のプロセスを加速していくことで一致した。**
- **日本側から、中国側による日本産食品の輸入規制の即時撤廃を改めて求めた。**

安全確保

東京電力

○海水中トリチウムを測定

- 放水口周辺 4 地点毎日、その他 6 地点で週 2 回（放出期間中）、放水口周辺 4 地点週 1 回、その他 6 地点で月 1 回（放出停止期間中）迅速分析を実施。

水産庁

○水産物は年約380検体でトリチウムを測定

- ①放水口の北北東へ約 4 km、②放水口の南南東へ約 5 kmの **2 地点で、週 4 回迅速分析を実施**（放出のない期間は週 1 回）

環境省

○海水中トリチウムを測定

- 放出期間中、放水口近傍 3 地点で期間中 2 回、その他沿岸 20 地点で期間中 1 回、迅速分析を実施。

（参考）原子力規制庁

○海水中トリチウムを精密分析にて測定。

- 20km以上離れた海域や、宮城県沖南部、茨城県沖北部でも、精密分析を実施。



- 一昨年8月から、東京電力が、東京電力福島第一原子力発電所の廃炉の取組について、**定期的に地元紙（福島民報、福島民友、岩手日報、河北新報、茨城新聞）に広告を掲載。**
- 本年6月も2回掲載しており、今後も**月1～2回の頻度で継続的に実施を予定。**

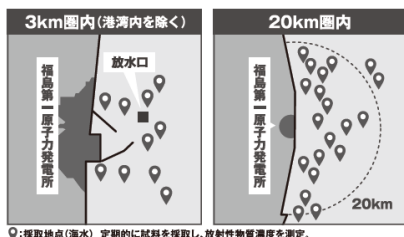
新聞への広告掲載内容（左上：モニタリング状況のお知らせ、右下：第37回）

広告

福島第一原子力発電所「周辺海域のモニタリング状況」のお知らせ（2024年6月）

東京電力ホールディングスは2022年4月から、発電所近傍や福島県沿岸の海域において、トリチウムを含む放射性物質の監視（モニタリング）を強化しています。

海域モニタリングにおけるトリチウム濃度は、運用上の指標（放出停止判断レベル：700ベクレル/ℓ）を大きく下回り、計画どおり安全に放出できていることを確認しています。引き続き、ALPS処理水の海洋放出における安全性の確保に万全を期してまいります。



採取地点（海水） 定期的に試料を採取し、放射性物質濃度を測定。

海域モニタリングの結果

当社が測定した海水や海産物の放射性物質濃度に、**有意な変動は確認されていません。**
詳細は当社ホームページをご覧ください。
<https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/watertreatment/monitoring/>



	エリア	海水の測定結果【単位：ベクレル/ℓ】 （2024年5月1日～5月末までに得られた測定結果の最大値）
トリチウム 【迅速測定 ^{*1} 】	3km圏内	29
	20km圏内	検出せず（＜7.7）
セシウム134 ^{*2}	3km圏内	検出せず（＜0.98）
	20km圏内	
セシウム137 ^{*2}	3km圏内	
	20km圏内	

＜「」の右側の数値は検出下限値、検出下限値を下回った場合は「」の右側の数値は検出下限値を1リットルあたり10ベクレルとする。
*1：トリチウムの検出下限値を1リットルあたり10ベクレルとする。
*2：福島県周辺海域における過去の検出範囲は、セシウム137が0.00028ベクレル/ℓ～0.45ベクレル/ℓ、セシウム134が0.00028ベクレル/ℓ～0.45ベクレル/ℓ。

包括的の海域モニタ

当社以外の各機関（環境省、水産庁、原子力規制委員会）による放射性物質濃度の測定結果も、**有意な変動は確認されていません。**
詳細は各機関の分析結果を一元的に確認してください。
<https://www.monitor.orcs.jp/>

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉

TEPCO

【参考】トリチウム濃度の比較

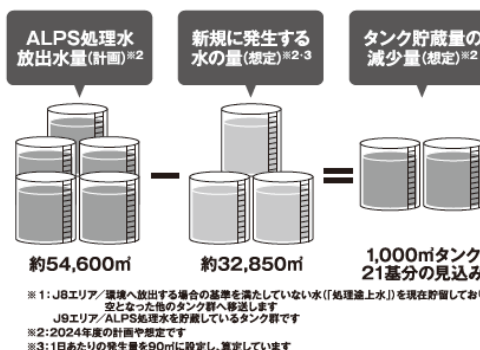
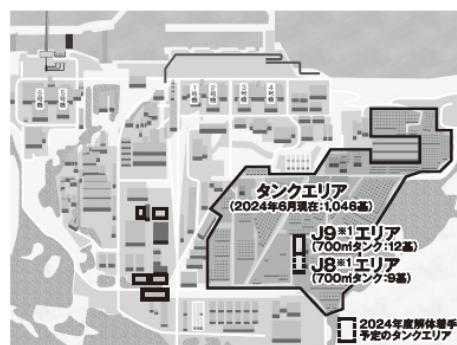


広告

福島第一原子力発電所の廃炉の現状と取組みをお伝えします Vol.37

福島第一原子力発電所の放射性物質によるリスクを継続的に低減する「廃炉・汚染水・処理水対策」の取組みについてお知らせします。「復興と廃炉の両立」に向けて、廃炉を安全かつ着実に進めてまいります。

ALPS処理水の海洋放出後、空いた敷地は廃炉のために計画的に利用していきます。



Q.ALPS処理水の海洋放出で、タンクはどうなるの？

▶ 2024年度は、J8・J9エリアのタンク（左図参照）を空にして解体に着手する計画です。

Q.タンクを解体した後、空いた敷地は？

▶ 廃炉作業に必要な施設・設備を計画的に建設することを検討しています。
J8・J9エリアでは、燃料デブリ^{*4}取り出し関連施設の建設を想定しています。

※4：事故の際、原子炉内の燃料が溶け、周囲の構造物と混ざりながら、冷えて固まったもの



ALPS処理水に関する情報はこちらをご覧ください
▶【処理水ポータルサイト】
<https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/watertreatment/>



敷地利用に関する公開資料はこちらをご覧ください
▶【ALPS処理水海洋放出の状況について（P.80～81）】
https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/watertreatment/image/240328_01.pdf



福島第一原子力発電所の廃炉・汚染水・処理水対策
▶【皆さまのご意見をお聞かせください】
<https://www.tepco.co.jp/decommission/voice.html>

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー
〒979-1301 福島県双葉郡大町大字大町北22